

事業概要

平田オリザ氏講演会
アートで育む子ども
の学び

～新たな時代を「生きる力」～

▷講演会タイトル

アートで育む子どもの学び～新しい時代を「生きる力」～

▷日時

令和3年2月19日（金）19：00～21：00

▷会場

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ミュージアムホール

▷来場者数

51名（定員50名）

▷講師

平田オリザ氏

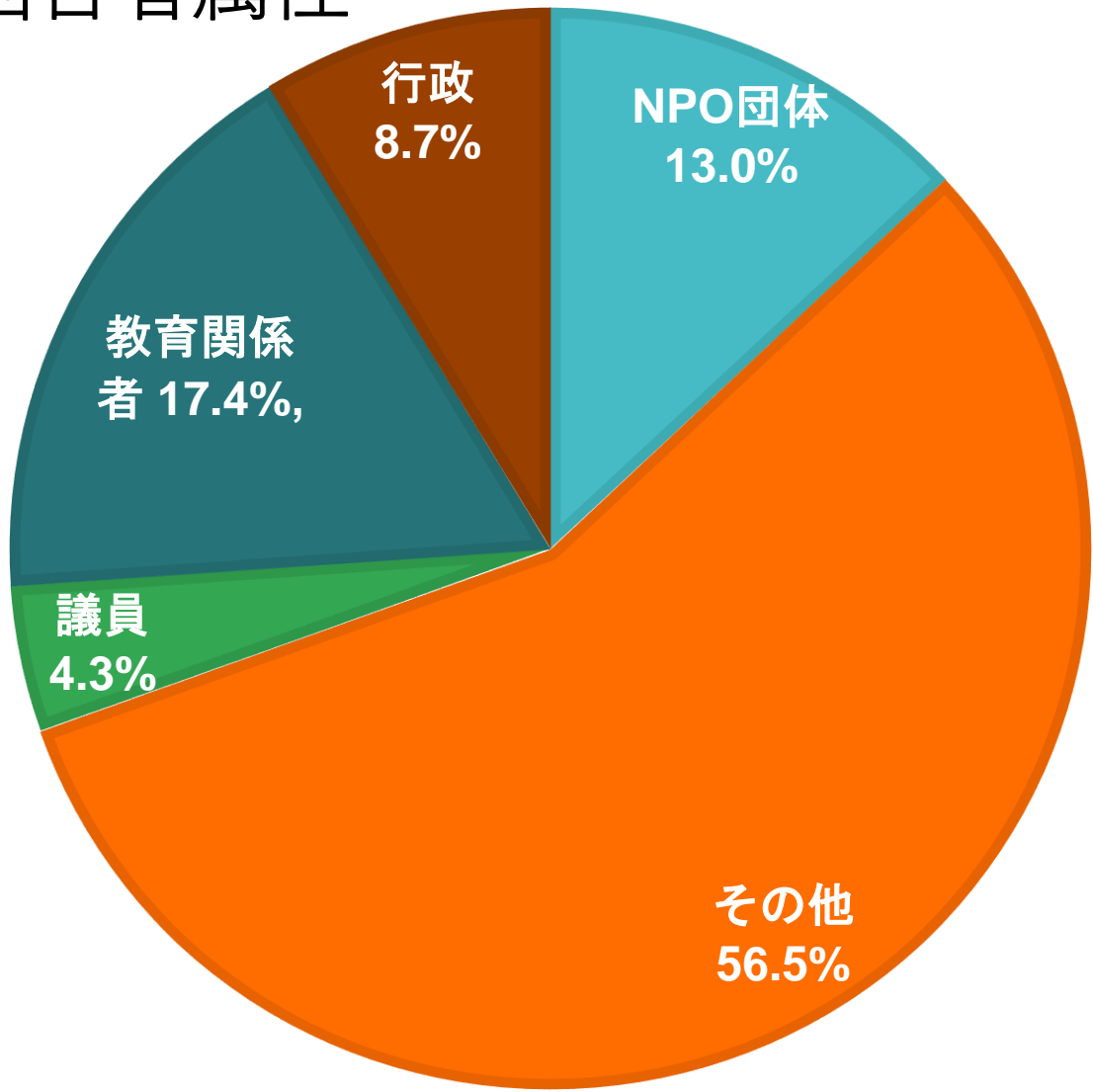


参加者アンケート

平田オリザ氏講演会
アートで育む子どもの学
び

～新たな時代を「生きる力」～

回答者属性

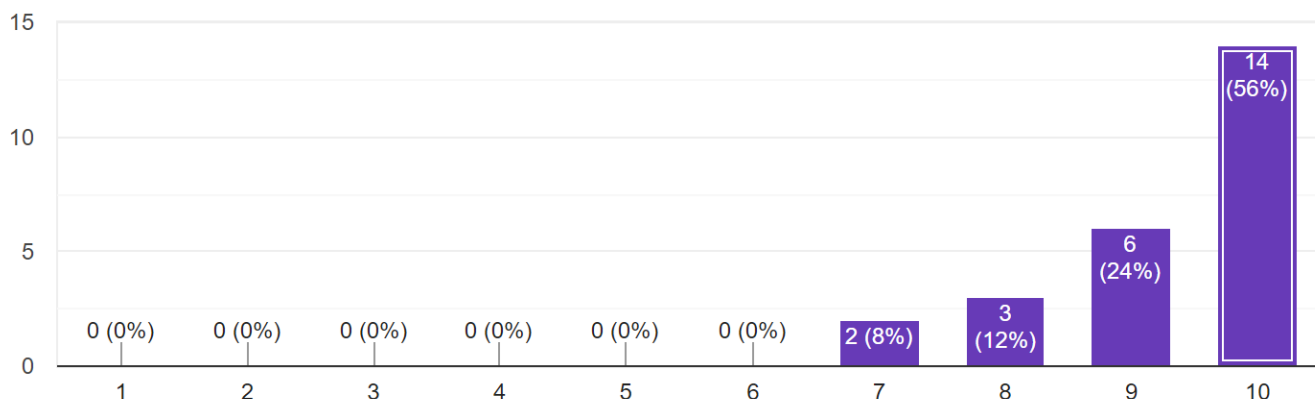


回答数N = 23

Q：この講演会に参加するにあたり、あなたが学びたいとあるいは得たいと期待されていたことは何ですか？

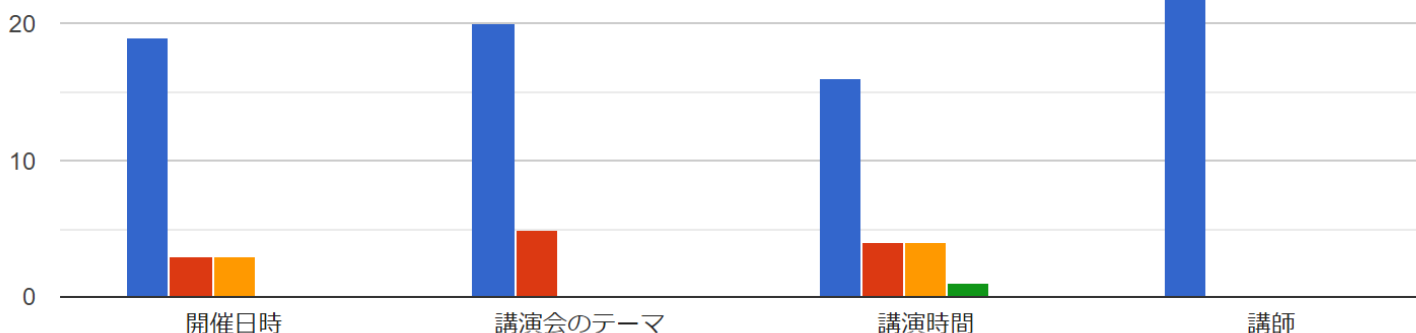
- 教育への理解
- "現代に求められている教員の力多様性を育むための教育のあり方"
- 「教育において文化芸術が果たせる役割について考える講演会」と聞き、私も長く音楽現場に関わってきた者として色々興味がありました。文化芸術を活用した教育について学びたいと思いました。
- 教育に演劇がどんな影響があるのか
- 子どもとアートの関係性
- アートを通じた地域における学び
- 子育てをアートという切り口で支援する考え方や方法、また実践のコツなど。実践者である平田オリザ氏の言葉を、直に聞き、学びたいと思った。
- 市民活動と演劇の結びつき
- 主体的で対話的な学びを実践するためのヒント等
- 教育に対する新たな視点
- 子どもの置かれている環境
- 小中高の孫を通じて日々交流する中で、学校教育以外に祖父、母は何を話し相手して過ごすか。そんな中でヒントになる、学べる講座を知り参加しました。アート、芸術を通じ人間性を共有したいと思います。
- アートがどのように子どもの生きる力を育てることにつながるのか。
- 演劇などの文化芸術が、なぜ教育に必要なのか
- アートと学びのリンク・心と思考の大切さ・今後の社会を見越しての教育とは
- 人生における芸術の必要性
- 子どもの置かれている環境
- NHKのラジオ番組で、平田さんのお話を聴き、直接お話しを聴けることだけを思い、期待などはありません。
- アートで育む子どもの学び「生きる力」の演題に興味があったため。昭和40年ころからほるぷこども図書館の販売に取り組んで参りましたがまさに生きる力を育む、他人を思いやる心や愛情、勇気、自立心を育てる、そして生きぬく力をつけていく。全国700万セットの大成功のシリーズでした。
- 主体的で対話的な学びを実践するためのヒント等

Q：前問の期待を10点としたら、
受講を終えた現時点では何点と評価
しますか。



Q：今回の講演会の以下の点に関し
て、どのくらい満足していますか。

■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらでもない ■ やや不満 ■ 不満



Q：本講演会に参加して、学んだことや気づいたこと等を教えてください

- 今の教育の新しさ
- 身体的文化資本を身に付けるためには、本物に触れることが大切であること。また、人種偏見や性差に対する偏見も、実際に人に関わったり異文化に入ることが大切だと思った。異なるものを受け入れる気持ちや、行動、そして何より楽しめる気持ちを大事にしたいと感じた。
- 社会で生きるときの、役割（プレイ）を演じる楽しさが公教育において大事であること。それを選択していける本人のセッション力と社会の許容がこれからますます大事になることがわかった。
- 教育の地域格差は、香川県内でも高松と、そうでない地域の差を感じる事も多々あります。子供達には「感じる力」を持ってもらいたいと思っています。今日の講座は本当に勉強になりました。
- 私も東京へ出て行った時に身体的文化資本に対してコンプレックスを持ちましたやはり、本物に触れる機会は必要だと思います。
- 他者の思いへの気づきを演じる事で学ぶプロジェクトは感銘しました。
- 地域の文化資本の重要性、一方で中々関心が高まらない
- 明らかに、学校教育の形や方法が変化しており、子どもたちが、これから社会の中で、自分らしく、持っている力を十分に発揮できる生き方をしていくには、従来の価値観や教育のままではいけないということが解った。以前より、私達の団体は、非認知能力を育てる体験の必要性に着目して、様々な活動を実践しているが、その方向性は間違いではなかったと感じることができた。一団体の取り組みで終わることなく、このような学びや体験を丸亀市全ての子供達が学校教育の中で継続的に学んでいけるような形を作り、ぜひ、みんなの劇場を活用して取り組むべきである。本講演を聞き、尚一層その思いを強くした。
- そもそも日本の文化的背景や教育体系では、創作の経験やエンパシー力が身に付きにくいということ。だからこそ、その力を底上げするためにも、演劇ワークショップや、対話型の学びは重要であることがよくわかりました。
- 社会から教育に求められることとその本質のような部分を感じることができた。また、自分自身の生活や生き方に対しても、考えが及んでいなかった部分に気づくことができた。
- "部屋に世界地図を貼っていたり、読む読まないに関わらず家に本がたくさんあったり、美術館や博物館に連れて行っていたり、外国語などに触れる機会があったりすることが、子どもの学ぶ力に結びついているという統計を今回はじめて知った。その統計の話聞きながら、成長の段階でどれだけたくさんの「？」「興味を惹かれるがその理由がわからないもの」に出会えるか、触れられるかということでもあるかなと思った。また、主体的であることと対話的であることの矛盾を昇華するのが共感ではないかという話を聴き、内省して検証してみようと思う

- "大学入試が変わる、以前のオリザさんの講演でそれを聞いてからはや数年、まさにもう始まっていることを実感しました。地方の文化格差の問題も。結局、社会で生きていく中で避けて通れないことがあり、それを身につけないことには入試うんぬんだけでなく、それぞれ地方の格差、存続が危ないと思いました。小さい頃から本物に触れる体験。《身体的文化資本》は、詰め込み教育のようにはいかず、子どもの頃から始めなければいけないなど。それが将来の地方の存続にも繋がると思いました。地方、地域のこれからは必要なこと。でも最終的には我が事だとも思いました。我も、我が子も、いきる道がなければ辛い(笑)ということです。今回は、そういう目線で話を聴いていました。対話劇を使った授業や、アクティブラーニング的な活動。そんな能力を求められる入試例。課題解決の上で、色々な考え方が必要になるということ。ひとつの考えだけでなく、全然違う考えを演劇を通じて経験する。色々な人、色々な考えがないと議論が活性化しない。だから、多様な人が必要。そこを重視した入試の話。これらの考え方が広く浸透していくなら、それぞれ、どんな人も必要とされる場があるはず。要らない人間はいない、という考え方も現実のものになると思いました。しかし身近なところでは、まだそこまで進む勢いが感じられません。自分が排除の対象になるかもしれない、という危機感を感じることがあります。一般的な生産性から見て、価値を感じられにくい、いわゆる金を生まない存在。そこに向けられる厳しい視線。それに反論する力や根拠を示し辛い、自分の不甲斐なさでもあるのですが(笑)。自分は、排除されたくはないし、誰かを排除したくもありません。どちらかになる危険を感じて生きるより、どれもいかなせる可能性を感じていたい。その方がずっと生存の確率が上がりそうだからだ(笑)。それが結局は全体の利益にも繋がるのではないかと思いました。まさにウィンウィン。自分のために。明日の我が身のためにとても重要なことだと思いました。今まさにコロナ禍で、“これまで”が通用しなくなるなど、より新しい考え方が求められています。ある意味 変わるチャンスかもしれないと、改めて考えさせられるお話でした。"
- 想像力や発想力の大切さ。体感から得る学びの大きさと可能性をよく理解できました。
- 芸能、芸術は人生にとって決して無駄なものではなく、むしろ必要なものである。が、人生にいかせるためには、個人や社会の価値観が変わらなければならない。
- 今後の教育の流れ。内面の育て方
- 都市部と地方の差は、この現代社会の中であまりないと思っていました。しかし、人間の根幹に関わる精神的な育成において大きな差が出ていることに驚きでした。
- 小豆島での先生の大活躍が心に残りました。私は20歳から54歳まで小豆島へは出張していました。いじめのロールプレイングに興味をもちました。一つ一つ書けないので大変平田先生の講演を聞かせていただいて満足に思います。
- そもそも日本の文化的背景や教育体系では、創作の経験やエンパシー力が身に付きにくいということ。だからこそ、その力を底上げするためにも、演劇ワークショップや、対話型の学びは重要であることがよくわかりました。

Q：本講演会で学んだことや気づいたことを、今後どのように生かしていきたいですか？

- 普段の学校での授業を、子どもたちに少しでも考える機会を与えたり、アウトプットしたりする場を設けるものに変えていきたいと思う。大変勉強になりました。
- 子どもたちの選択の余地ができるように、本物と触れ合う機会を設け、自分の手で触れ挑戦した時の手応えを大事したい。子どもが頼まれていないのに夢中になること、役割として張り切ることなどに気づけるよう、よくそれぞれを観察したい。
- 当法人では、アーティストの幼児教育施設や公共施設への派遣や放課後児童クラブの事業をしていますので、アーティストと関係者に本日の動画を見てもらって議論し、役立てたいと思います。
- 上記した活動をぜひ進めていければと思う。一団体では限界があることも、行政や企業と連携をとれば可能になるのではないかと。丸亀市が、子どものためにという共通の思いを持つ人々と連携して、新しく出来る施設(マルタス、みんなの劇場)を生かした質の高い事業を押し進める事を希望する。団体として協働できることを考えると共に、しっかりと見届けていきたい。
- 講演会での気づきをもとに、物事を深く考え、仕事やプライベートにおいて自分が目指すものを見つけることに繋げたい。
- 今まで通りの生活で良いのだと、気付かせて頂きました、
- 毎日が新しい空気で始まるように冗長率を高め共感し接する人との会話に発展、期待感をもって応援していきたいと思います。暮らしの方向性、時間のモチベーションの高揚に大変参考になりました。貴重な講演を生涯勉強のきっかけにしたいと思います。
- 私自身の身の回りが、子どもたちの身体的文化資本を豊かにできるような存在、場所になっているかをよく考えてみたい。
- "文化芸術の必要性を語る時の、ひとつの根拠として持っておきたいと思います。地方の存続という面から、大学入試や、それに向かう一連の教育を考える全体についてのことは、広く興味関心を持ってもらえんと思います。それとは別に、多様性がなぜ大切かということについては、自分にも降りかかる問題として関心を持ってもらえんと思います。なじみのない人にも伝わりやすい内容として、頭に入れておきたいです。"
- 大人が価値観変化求められると感じた、現場環境を見て詰め込み式な学びややり方を、誰もが自分ごとにしないといけなと改めて感じました。小さくとも大人が、それぞれの場・役割から子どもたちへ投資（愛を捧ぐ教育と名のもの）のため変化変容を求める働きをしたいです。
- 自分の関わっている子どもへのボランティア活動において、一人一人の声に耳を傾け、そこから私自身も彼らへ発する言葉取り組み方を学んでいきたいと思いました。自分自身が固定観念から解放されることも学ぶ必要があると思います。
- 平成6年丸亀市立図書館主催読書講演会が当美術館で開かれました。私は香川県中小企業団同友会中讃支部会員として10年くらい色々な事業に参加していましたが、特に日本教育学会会長太田先生のお話は、人育てとは？どうすればやる気を出し頑張るのかのテーマでした。今後色々な講演会に参加したいと思います。
- 私の専門であるコーチング的関わりも、上記の力を養うのに有効だと思しますので、もっと普及させてまいります。

Q：本講演会に関して、ご意見・ご要望がございましたらご自由にお書きください。

- 参加させていただきありがとうございました
- スタッフの方々、平田オリザさん、お忙しい中、今回のような講演会を開催していただきありがとうございました。
- 今日はありがとうございました。
- 県下高松市や教育関係者の方々向けとか、たくさんの方々に向けてお話しが伺える機会があればうれしいですね。
- 丸亀市は頑張っているなあ～
- ありがとうございます
- "考えるきっかけをたくさんいただきました。ありがとうございました。共感の輪が広がるといいですね。"
- 素晴らしい会場、多彩なスピーチに感謝感激です。
- 大変素晴らしい学びの時間でした。ありがとうございました。もっと聞いていたかったと感じる講座でした。掘り下げて大人が考え合えるワークショップが今後あると、体感的に大人も学びやすいと思いました。
- このような高い価値(人によって異なりますが)観のある講演をもっともっと多く開催していただければと思います。
- どうもありがとうございました。
- "考えるきっかけをたくさんいただきました。ありがとうございました。共感の輪が広がるといいですね。"